

外部機関との連携

1月11日（金）に行われた第5回高等部支部ブロック学習会は、外部機関との連携について、南養護学校 高等部教務主任 岡部直樹先生よりお話を伺いました。

1 講話 「外部機関との連携に関する事例や連携における留意点」

外部機関とは：児童相談所・障害者基幹相談支援センター・病院・幼稚園・
小中学校・子ども応援委員会 など

- ケース1 母親からの聞き取りで、子どもに手を出してしまうとの相談を受けた事例。児童相談所への通告？保護者から相談してもらう？
- ケース2 不登校について、保健所・福祉課に相談しても断られた事例。基幹相談支援センターだけでなく、同時進行で子ども応援委員会とも連携！
- ケース3 日本語理解が難しい外国人の保護者への対応事例。通訳がほしいなあ…どうする？

一つの機関だけでなく、複数の機関と同時に連携するケースや、基幹相談支援センターからの紹介で日本語教育相談センターへの利用に至ったケースなど、それぞれのケースについて、現在の課題とどこの外部機関を利用したか、どのようにつないだか、など具体的にお話がありました。

外部機関との連携は、【状況把握、問題点の確認、どのような支援が必要か、適切な機関の選択】といった手順が進められます。各機関と連携を図るのは大切なことです。しかし、目の前の子どものためには、外部につなぐだけでなく、学校として何ができるかを考え、それぞれの立場で最大限の力を尽くし、連携していくことが大切であると教えていただきました。



2 質疑応答

- Q ケース1について、もし、通告した場合、警察にその情報が伝えられ、保護者が罪に問われてしまうことがあるのですか。
- A それを心配し、このことに詳しい別の学校の先生に相談してから動きました。通告によって保護者の方が罪に問われることは、基本的にはありません。
- Q 校内でどのような経過を経て外部機関に相談することになったのでしょうか。
- A 担任の先生より相談を受けて状況を把握し、どのような支援が必要かを見極めた上で、管理職の助言や協力を得て相談機関を決めました。

3 グループ協議&共有タイム

今回のグループ協議では、生徒の様子から心理発達の段階を予想し、その理由を付箋に記入しました。各自で考え、その後グループで協議しましたが、意見の違いが見られ、グループで話し合うことにより、自分の考えとは違う視点もあるといったことに気付くグループもありました。

グループでの協議の後、岡部先生から、事例に挙げられた内容から保護者とその生徒の背景を読み取り、心理発達段階を予想していただいた上で、今後、外部機関と連携していくためのポイントを教えていただきました。



☆アンケートより☆

今回はたくさんのご感想をいただきました。ありがとうございました。みなさんのご感想から、外部機関との連携は、高等部での指導をする上で欠くことのできないものであることを改めて実感しました。ほんの一部ですが、ご紹介します。

- 外部機関について、どんなところがあるのかいくつかの名前は知っていましたが、どんなときにどんなことを助けてもらうかなど、詳しく知りませんでした。今までは、学校でどうにかしなければという考えがほとんどでしたが、あらゆる面での支援が大切であることを知りました。
- 実際に担任している子どもをイメージしながらお話を聞かせていただくことができました。自分の引き出しとして今日のお話を頭に置いて、これからの支援に生かしていきたいと思います。
- 事例を通したケースと関係機関との取り扱いが参考になりました。また、子どもの状況から今置かれている問題点や課題について、考えることができて良かったです。
- ケースごとにどのような課題があり、そのためにどこの機関につないでいくのがとても分かりやすかったです。こういった機能を発揮される機関かということも分かりやすく、自分の中で整理が少しできました。

(文責：南養護学校 鈴木優子)

第4回全体会のお知らせ

【平成31年2月28日(木) 18:30～ 名古屋市教育館 講堂】

ブロック学習会へのご参加、ありがとうございました。全5回のブロック学習会のまとめとして、全体会を上記の期日に行います。高等部ブロックだけでなく、他のブロックでの一年のまとめを聞くことができます。みなさまの参加をお待ちしております。